

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4091420号
(P4091420)

(45) 発行日 平成20年5月28日 (2008. 5. 28)

(24) 登録日 平成20年3月7日 (2008. 3. 7)

(51) Int. Cl.	F 1	
A 4 7 J 31/02 (2006. 01)	A 4 7 J 31/02	
A 4 7 J 31/44 (2006. 01)	A 4 7 J 31/44	Z
A 4 7 G 19/22 (2006. 01)	A 4 7 G 19/22	L

請求項の数 10 (全 9 頁)

(21) 出願番号	特願2002-529925 (P2002-529925)	(73) 特許権者	500027208
(86) (22) 出願日	平成13年9月7日 (2001. 9. 7)		スターバックス・コーポレーション
(65) 公表番号	特表2004-509681 (P2004-509681A)		アメリカ合衆国、ワシントン州98134
(43) 公表日	平成16年4月2日 (2004. 4. 2)		、シアトル、ユタ・アヴェニュー・サウス
(86) 国際出願番号	PCT/US2001/028198		2401
(87) 国際公開番号	W02002/026091	(74) 代理人	100078282
(87) 国際公開日	平成14年4月4日 (2002. 4. 4)		弁理士 山本 秀策
審査請求日	平成17年6月3日 (2005. 6. 3)	(74) 代理人	100062409
(31) 優先権主張番号	09/670, 470		弁理士 安村 高明
(32) 優先日	平成12年9月26日 (2000. 9. 26)	(74) 代理人	100113413
(33) 優先権主張国	米国 (US)		弁理士 森下 夏樹
		(72) 発明者	スミス, スティーブン ディー.
			アメリカ合衆国 オレゴン 97219,
			ポートランド, エスダブリュー ドル
			フ ストリート 1831

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 一体型の容器および抽出器装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

抽出可能物質を貯蔵し、そして該抽出可能物質を別体の飲用容器に淹れるための、一体型の容器および抽出器装置であって、以下：

抽出前の抽出可能物質を貯蔵するための密閉可能な内部空洞 (34) と、容器 (14) に貯蔵された該抽出可能物質へのアクセスを提供するためのリムセクション (22) によって規定される頂部の開口部 (20) とを有する、抽出可能物質貯蔵容器 (14) ；

蓋 (24) であって、該蓋は、該容器 (14) の該頂部の開口部 (20) 内に密閉されて、該リムセクション (22) と流体を通さない密封を形成して該貯蔵容器 (14) を密閉するように適合されており、その結果、該抽出可能物質が、貯蔵の間に保存される、蓋 (24) ；および

抽出器 (12) ；

を備え、

該抽出器 (12) は、第一の貯蔵位置において、該容器 (14) への取り外し可能な取り付けのために、該容器 (14) の蓋 (24) の周りに密封されるような構成および寸法にされた、外周フランジ (36) を備え、該抽出器 (12) は、突出ウェル部分 (42) を有し、該突出ウェル部分 (42) は、該第一の貯蔵位置において、該蓋 (24) から突出し、そして該抽出器が該容器 (14) から取り外されて第二の抽出位置に反転される場合に、該抽出可能物質の一部を受容するために適合されており、該ウェル部分 (42) は、該抽出可能物質の抽出を可能にするための複数の穴 (48) を有し、

10

20

該抽出器（１２）は、維持手段（５８、４０）をさらに有し、該維持手段（５８、４０）は、該維持手段（５８、４０）を該飲用容器（６０）の外部リムと係合させることによって抽出の間、該反転した第二の抽出位置で該抽出器（１２）を該別体の飲用容器（６０）の頂部に維持するためのものであり、これによって、液体が該別体の飲用容器（６０）に添加される場合に、該突出ウェル部分（４２）内の抽出可能物質の抽出を可能にするために十分な距離だけ、該突出ウェル部分（４２）が該飲用容器の開口部内へと延びる、装置。

【請求項２】

請求項１に記載の装置であって、前記抽出器（１２）と取り外し可能に連結されるキャップ（１６）をさらに備える、装置。

10

【請求項３】

請求項２に記載の装置であって、前記キャップ（１６）が、前記抽出器（１２）のための一時的な保持場所を提供する、装置。

【請求項４】

請求項１に記載の装置であって、前記反転した第二の抽出位置で前記抽出器（１２）を前記別体の飲用容器（６０）の頂部に維持するための前記手段が、少なくとも２つの維持クリップ（５８）を備える、装置。

【請求項５】

請求項４に記載の装置であって、前記維持クリップ（５８）が、前記抽出器（１２）の前記外周フランジ（３６）に連結される、装置。

20

【請求項６】

請求項１に記載の装置であって、前記反転した第二の抽出位置で前記抽出器（１２）を前記別体の飲用容器（６０）の頂部に維持するための前記手段が、前記外周フランジ（３６）によって規定される肩部セクション（４０）を備える、装置。

【請求項７】

一体型の容器および抽出器装置を使用する方法であって、該装置は、抽出前の抽出可能物質を貯蔵するための密閉可能な内部空洞（３４）および容器（１４）に貯蔵された該抽出可能物質へのアクセスを提供するためのリムセクション（２２）によって規定される頂部の開口部（２０）を有する、抽出可能物質貯蔵容器（１４）；蓋（２４）であって、該蓋は、該容器（１４）の該頂部の開口部（２０）内に密閉されて、該リムセクション（２２）と流体を通さない密封を形成して該貯蔵容器（１４）を密閉し、その結果、該抽出可能物質が、貯蔵の間に保存される、蓋（２４）；ならびに抽出器（１２）であって、該抽出器（１２）は、第一の貯蔵位置において、該抽出可能物質を受容するために、該容器（１４）への取り外し可能な取り付けのために該容器（１４）の蓋（２４）の周りに密封されるような構成および寸法にされた、外周フランジ（３６）をさらに有し、該抽出器（１２）は、該抽出可能物質の抽出を可能にするための複数の穴（４８）を有する、抽出器（１２）を備え、該方法は、以下：

30

該抽出可能物質貯蔵容器（１４）から該抽出器（１２）を取り外す工程；

該内部空洞（３４）内の抽出可能物質にアクセスするために、該抽出可能物質貯蔵容器（１４）の頂部の開口部（２０）から該蓋（２４）を取り外す工程；

40

該抽出可能物質貯蔵容器（１４）から一定量の抽出可能物質を得る工程；

該抽出器（１２）の該ウェル部分（４２）内に該量の抽出可能物質を配置する工程；

別体の飲用容器（６０）の開口部内に、該抽出器（１２）を該第一の貯蔵位置から反転した位置で配置し、これによって、該突出ウェル部分（４２）が該飲用容器（６０）の開口部内へと延びるように、該抽出器（１２）が該飲用容器（６０）の開口部を規定するリムセクションと係合する、工程；および

該抽出器（１２）が該飲用容器（６０）と係合している間に、該抽出可能物質を収容している該抽出器（１２）を通して、高い温度を有する流体を注ぐ工程、を包含する、方法。

【請求項８】

50

請求項 7 に記載の方法であって、該抽出可能物質から風味を抽出するために該抽出可能物質を浸漬する工程をさらに包含する、方法。

【請求項 9】

請求項 7 に記載の方法であって、前記装置は、キャップ (1 6) をさらに有し、該方法は、抽出後に該キャップ (1 6) 上に前記抽出器 (1 2) を配置する工程をさらに包含する、方法。

【請求項 10】

請求項 7 に記載の方法であって、前記別体の飲用容器 (6 0) へ抽出器 (1 2) を取り外し可能な様式で連結する工程をさらに包含する、方法。

【発明の詳細な説明】

10

【0001】

(発明の分野)

本発明は、一般に、飲料を保存し、そしてこれを淹れることに関し、より詳細には、茶および他の浸漬飲料を保存し、およびこれらを淹れるための一体型の容器および抽出器装置に関する。

【0002】

(発明の背景)

ここ数年、いわゆる美食的飲料産業における興味が徐々に現れてきている。これらの飲料の消費は、最高品質および入手可能な最良の味の飲料の要求とともに、増加している。さらに、この要求により、風味の広範囲にわたる選択の欲求が生じた。美食的飲料店およびカフェの流行により、自宅で同じ品質の飲料を入手したいという欲求が出てきた。自宅での消費のための1つのこのような美食的飲料は、茶および/またはハーブティーである。最高品質の茶を淹れるために、最高品質の茶葉が用いられなければならない。これらの茶葉は、代表的には、未包装の完全葉 (loose , full leave) として販売されている。

20

【0003】

代表的な、自宅で茶を淹れるデバイスには、一度に何杯も淹れるためのポット全体が用意される。これらのデバイスは、1杯だけ必要な消費者には実用的でない。ティーバッグの出現は、1杯だけ入れるためのデバイスというこの必要性に対処した。しかし、ティーバッグは、例えば、低品質の茶葉が使用され、消費者は、ティーバッグ方式で利用可能な茶の風味およびタイプに制限されるというようないくつかの欠点を有する。さらに、茶を淹れる方法は、淹れた茶の品質に影響を及ぼす。浸漬工程、すなわち、沸騰した湯に近い湯に茶を浸すことにより茶の風味を抽出するプロセスは、未包装の完全葉を用いて茶を淹れるための最良の方法として認識されている。

30

【0004】

最高品質の茶を淹れるために、いくつかの茶抽出器が提示されている。その結果、最高品質の茶葉および最高の茶を淹れる方法が用いられ得る。従来の茶抽出器は、代表的には、飲用容器の開口部内に位置した、中央部が窪んでいる、円形に形作られた茶漉しである。この窪んだ部分は、いくつかの穴を備え、飲用容器の空洞に延びている。未包装の茶葉は、この中央の窪んだ部分に入れられ、その上から沸点に近い流体 (例えば、湯) が注がれる。この流体が葉の上および穴を通して飲用容器へと通過すると、風味が抽出される。風味は、沸騰した湯に近い湯を抽出器の中央部分を満たすように上昇させることにより、茶葉からさらに抽出される。茶葉を、所定の時間の間、沸騰した湯に近い湯中で浸漬させる。一旦所望の茶の濃さに達したら、葉および/または抽出器を飲用容器から外す。

40

【0005】

いくつかの先行技術のデバイスとしては、1杯の茶を淹れる簡便な方法を提供するための、抽出器の蓋が取り付けられたカップのような取り分け用容器 (serving container) が挙げられる。このような先行技術の抽出器は、米国特許第 5 , 7 7 5 , 2 0 5 号 (Melton) および米国特許第 5 , 9 4 7 , 0 0 4 号 (Huang) に示され、記載されている。しかし、茶葉を保存し、そして関連した飲用容器と共に使用される

50

場合の茶を淹れるための抽出器を提供する、簡単に組み立てられ、審美的に満足できるパッケージに含まれる、多目的デバイスは未だ存在しない。

【 0 0 0 6 】

(発明の要旨)

本発明は、ユーザーが茶のような飲料を保存し、これを淹れることができる、簡便な、審美的に満足できる多目的容器 / 飲料抽出器を提供する。このデバイスは、茶を淹れる前に、未包装の茶葉を保存するための基部容器を備える。蓋は、茶葉が貯蔵の間に保存され得るように、容器を密閉するために設けられる。抽出器は、基部容器に取り外し可能に取り付けられる。この抽出器は、飲用容器に対して逆にされ得、浸漬される所定の量の新鮮な茶葉を受容し得るように形作られる。クリップは、茶を淹れるプロセスの間に、抽出器が種々の寸法の飲用容器に対して逆の位置に保持され得るように抽出器に、取り付けられる。キャップは、組み立てられたときに抽出器の頂部に配置され、そして過剰な滴りを防ぐためのドリップキャップとして、使用した後の抽出器を保持するために安定な面に配置されるように設計されている。

10

【 0 0 0 7 】

本発明の第 1 の局面に従って、一体型抽出可能物質 (i n f u s i b l e s u b s t r a t e) 容器および抽出器装置は、抽出の前に抽出可能物質を保持するための内部空洞を有する容器およびこの容器と取り外し可能な関係にある抽出器を備える。この抽出器は、抽出可能物質を受容するためのウェル部分を備え、この抽出可能物質の抽出を可能にするための複数の穴をさらに備える。

20

【 0 0 0 8 】

本発明の別の局面に従って、一体型容器および抽出器装置を用いる方法が提供される。この方法に従って、ユーザーは、この容器から抽出器を外す。ユーザーは、この容器から一定量の抽出可能物質を得、ウェル部分にこの量の抽出可能物質を入れる。ユーザーは、関連する飲用容器の開口部内に抽出器を配置し、抽出器を通して湯を注いで、抽出可能物質から風味を抽出する。

【 0 0 0 9 】

(好ましい実施形態の詳細な説明)

本発明は、添付の図面を参照してここに記載される。一般に図 1 を参照して、一体型の容器および抽出器 1 0 の組み合わせの代表的な実施形態を示す。図 2 に示すように、一体型容器および抽出器 1 0 は、円柱状に成形された容器 1 4 に取り外し可能に装着された抽出器蓋 1 2 および取り外し可能キャップ 1 6 からなる。茶または他の抽出可能な物質を貯蔵するための容器 1 4 は、丸い側壁部 1 8 と、巻かれた、内側に折り返されたリムセクション 2 2 を有するオープントップ 2 0 と、容器蓋 2 4 とを備える。この蓋 2 4 は、上に伸びる側壁セクション 3 0 (陥没中央セクション 2 8 の外周にそって包む) に対して、横断様式に接続された陥没中央セクション 2 8 によって規定されている。リップセクション 3 2 は、下方に伸びる様式で中央セクション 2 8 の半径方向外側の側壁セクション 3 0 に装着されている。リップセクション 3 2 は、ロールまたはカールの形態で蓋 2 4 の外周表面にそって伸びて、容器 1 4 のリムセクション 2 2 と係合し得る環状表面を形成する。図 3 に示すように、蓋 2 4 は、容器 1 4 のオープントップ 2 0 内に配置かつ設置されて、茶葉または他の抽出可能物質を貯蔵するための流体を通さない空洞 3 4 を形成し得る。

30

40

【 0 0 1 0 】

図 2 ~ 4 を参照すれば、本発明の代表的な実施形態において、抽出器蓋 1 2 は、抽出の間に抽出可能物質を受け取りかつ収容するためのウェル部分を形成する。この抽出器蓋 1 2 は、容器 1 4 のオープントップ 2 0 に取り外し可能に装着されており、そして外周フランジ 3 6 と一般に呼ばれる第一セクションを備える。外周フランジ 3 6 の底部は、巻いた、外側に折り返されたリムセクション 3 8 で終わる。この外周フランジ 3 6 は、抽出器蓋 1 2 を容器 1 4 の側壁部分 1 8 の上部の上に設置することを可能にするのに十分な直径であり、一方この容器 1 4 のリムセクション 2 2 は、下記の抽出器蓋 1 2 の棚セクション 4 0 を係合する。外周フランジ 3 6 のリムセクション 3 8 は、容器 1 4 の半径方向外側に十分

50

に間隔を隔てており、この容器 1 4 から抽出器 1 2 を取り外す際に、このリムセクション 3 8 の下に指を入れることが可能である。

【 0 0 1 1 】

図 2 ~ 4 に示されるように、この抽出器蓋 1 2 はさらに、中央に配置された環状突出部分 4 2 と一般に呼ばれる、第二セクションをさらに備える。この突出部分 4 2 は、この抽出器蓋 1 2 の外周フランジ 3 6 から半径方向内側に隔てられた側壁 4 4 によって下方に規定されている。この突出部分 4 2 はさらに、平坦な頂部壁 4 6 によって規定され、この頂部壁 4 6 は、この抽出器蓋 1 2 を通じる流体連絡を提供する複数の開口部 4 8 を有する。反転された場合、この突出部 4 2 は、茶葉または他の抽出可能な飲料材料を維持するためのチャンバまたはウェル 5 0 を形成する。

10

【 0 0 1 2 】

図 2 ~ 4 を参照すれば、この抽出器蓋 1 2 はさらに、外周フランジ 3 6 と突出部 4 2 との間に配置された中間セクション 5 2 と一般に呼ばれる第三セクションを含む。中間セクション 5 2 は、側壁 4 4 の底部で始まり、そして側壁 4 4 の半径方向外側にテーパ状またはドーム状の様式で下方に延び、円錐台 (frust conical) 表面 5 4 を形成する。外周フランジ 3 6 の半径方向内側であるが側壁 4 4 からは半径方向外側である位置で、この中間セクション 5 2 は、表面 5 4 から下方に伸展して、円柱状側壁 5 6 を形成する。この中間セクション 5 2 は、円柱状側壁 5 6 の底で外側に延び、円柱状側壁 5 6 を横断する方向に延び、環状の棚セクションまたは肩部セクション 4 0 を形成する。中間セクション 5 2 は、外周フランジ 3 6 の頂部で終わる。

20

【 0 0 1 3 】

なお図 2 ~ 4 を参照すれば、カップまたは飲用容器 6 0 の頂部でこの抽出器を維持するための、2 つ以上の対面して向かい合ったヒンジクリップ 5 8 が、外周フランジ 3 6 に対して回転するように装着されている (図 5)。図 4 に示される実施形態において、このクリップ 5 8 は、L 型に成形された断面に形成される。クリップ 5 8 の末端は、外部フランジ 3 6 内に形成されたスロット 6 8 内に延びる。このクリップ 5 8 は、図 5 に示されるように、カップまたは飲用容器 6 0 の外部リムに係合するのに十分なほど遠く外側に、このクリップが延びるように成形される。

【 0 0 1 4 】

図 3 および 4 に示されるように、本発明の装置はさらに、キャップ 1 6 を設けられてもよい。このキャップ 1 6 は、抽出器蓋 1 2 の突出部に対して取り外し可能に装着可能である。このキャップ 1 6 は、側壁セクション 6 2 および平坦な頂部壁 6 4 によって下方に規定されており、この側壁セクション 6 2 および平坦な頂部壁 6 4 の両方が、突出部 4 2 の、それぞれ、側壁 4 4 および頂部壁 4 6 に対して一致する。側壁セクション 6 2 の底部エッジは、巻いた、外側に折り返すリムセクション 6 6 で終わる。このキャップ 1 6 が抽出器蓋 1 2 の突出部 4 2 の上に配置される場合、このキャップ 1 6 は、ピッタリ適合した (snug) 設置係合を作製するのに十分な直径で形成される。

30

【 0 0 1 5 】

本発明が異なる様式で利用され得ることが理解されるが、この一体型の容器および抽出器 1 0 の現在好ましい用途の説明をここで行う。図 5 に最適に示すように、キャップ 1 6 および抽出器蓋 1 2 は、容器 1 4 から脱着される。抽出器蓋 1 2 は、キャップ 1 6 から分けられ、そして飲用容器 6 0 の上に反転される。このキャップ 1 6 は、抽出器蓋 1 2 の脱着の前または後に抽出器 1 2 から分けられ得ることを理解すべきである。この抽出器蓋 1 2 は、維持クリップ 5 8 が飲用容器 6 0 の外部リムに係合し、それによって外部リムに抽出器蓋 1 2 を結合するまで、反転された様式で飲用容器 6 0 の開口空洞中に下げられる。容器蓋 2 4 を容器 1 4 から取り外して、ばらのお茶または他の抽出可能物質 2 6 を曝す。抽出器蓋 1 2 が反転されそして飲用容器 6 0 に結合される前に、蓋 2 4 が取り外され得ることが理解される。所望の量のばらの茶葉または他の抽出可能な物質 2 6 は、容器 1 4 から取り出され、そして抽出器蓋 1 2 のチャンバまたはウェル 5 0 に入れられる。これは、この抽出器蓋 1 2 が飲用容器 6 0 に結合される前または後に行われ得る。次いで、チャンバ

40

50

またはウェル 50 中の流体のレベルが適切なレベルに達するまで、ほぼ沸騰している流体（例えば、湯）を、チャンパ 50 中の茶葉 26 の上に注ぎ、この結果、実質的に全ての茶葉または他の抽出可能物質 26 が、この流体中に完全に浸漬される。所望の時間の間、この茶葉 26 を浸させた後、この抽出器蓋 12 を、飲用容器 60 から取り外す。この抽出器蓋 12 を、図 6 に示されるように、キャップ 16 中に反転位置に配置して、過剰な流体のドリップを防ぎ得る。使用後、この容器蓋 24 は、容器 14 を密封して後の使用のためにばらの茶葉 26 を保存するために、容器 14 上に戻され得る。抽出器蓋 12 は、再び反転され、容器 14 の頂部に置かれ得る。次いで、このキャップ 16 は、貯蔵のために、抽出器蓋 12 の突出部 42 の頂部に配置され得る。

【0016】

10

あるいは、この抽出器蓋 12 の突出部 42 がこの流体に浸漬されるように、関連した飲用容器 60 中の流体を適切なレベルにすることによって、茶が浸され得る。一旦この茶が所望の香りに達すれば、この抽出器蓋 12 は、飲用容器 60 から取り外される。

【0017】

本発明の別の実施形態において、図 7 に示すように、容器蓋 24 は、省略され得、そしてこのキャップ 16 は、ばらの茶葉を保存するための密封された空洞 34 を作成するため、抽出器蓋 12 および容器 14 を密封するさらなる機能を果たし得る。

【0018】

本発明の好ましい実施形態を例示し記載してきたが、本発明の趣旨および範囲から逸脱することなく、本発明において種々の変化がなされ得ることが理解される。例えば、抽出器蓋 12 の直径は、抽出器蓋 12 と飲用容器 60 との結合に維持クリップ 58 が必要でないように、十分な直径であってもよい。反転した抽出器蓋 12 は、環状棚セクション 40 をその外部リムに係合させることによって飲用容器 60 の上に載る。

20

【0019】

前述の局面および本発明の付随する利点の多くは、以下の詳述される説明を参照し、添付の図面とあわせて考慮した場合によりよく理解されるのことが、より容易に認識される。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 図 1 は、本発明の一体型容器および抽出器装置の代表的な実施形態の斜視図である。

【図 2】 図 2 は、図 1 の代表的実施形態の分解組立図を示す。

30

【図 3】 図 3 は、図 1 に示される容器および抽出器装置の断面図を示す。

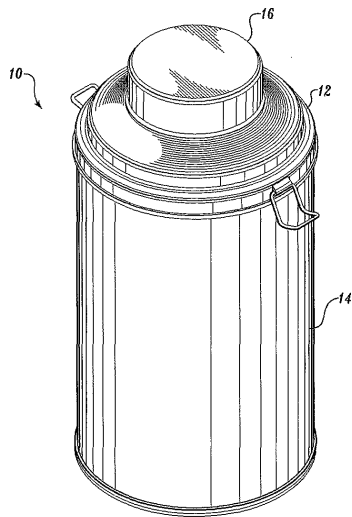
【図 4】 図 4 は、図 1 に示される容器および抽出器装置の拡大断面図を示す。

【図 5】 図 5 は、容器および抽出器装置の環境図である。

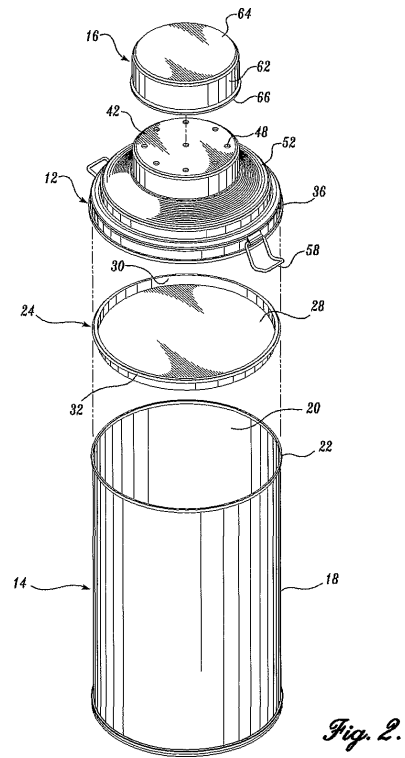
【図 6】 図 6 は、抽出前または抽出後にキャップに配置される抽出器を示す斜視図である。

【図 7】 図 7 は、本発明の一体型容器および抽出器装置の別の代表的実施形態の断面図を示す。

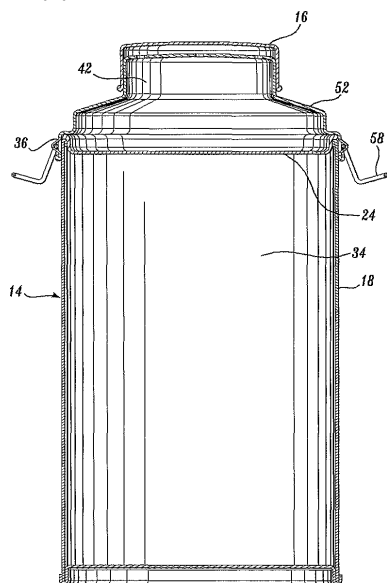
【 図 1 】



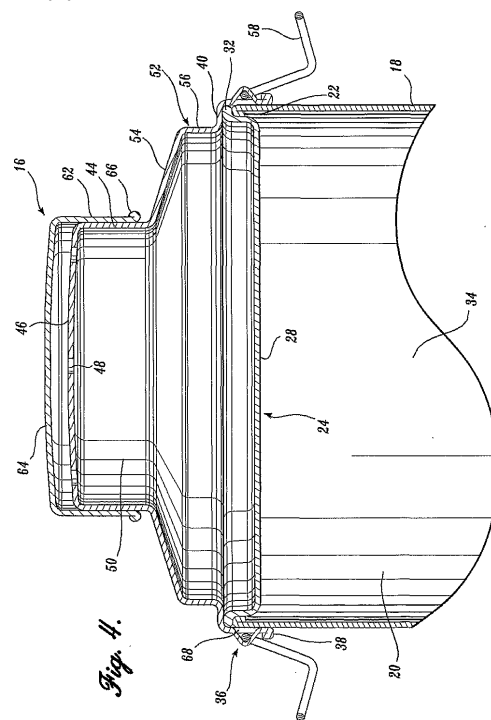
【 図 2 】



【 図 3 】



【 圖 4 】



【図 5】

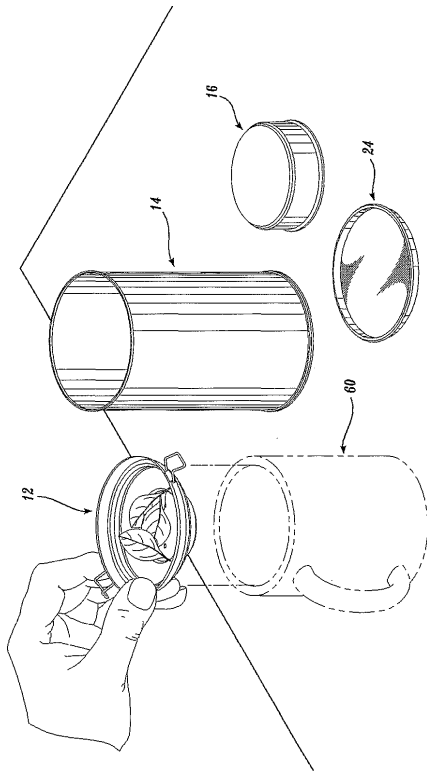


Fig. 5.

【図 6】

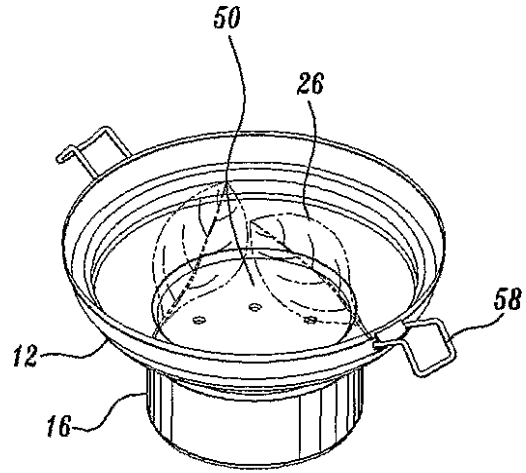


Fig. 6.

【図 7】

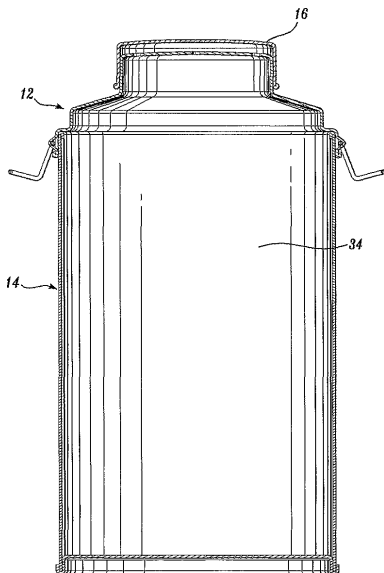


Fig. 7.

フロントページの続き

審査官 杉山 豊博

- (56)参考文献 実開昭50-068086(JP, U)
実開平06-036462(JP, U)
実公平06-025238(JP, Y2)
国際公開第98/026697(WO, A1)
米国特許第06065609(US, A)
米国特許第04627334(US, A)
米国特許第04417504(US, A)
特表2001-511026(JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A47J 31/02
A47G 19/22
A47J 31/44
WPI